

三鷹市障がい者地域自立支援協議会（令和5年度第6回）議事要旨

日時：令和6年1月25日（木）18時30分～20時30分

場所：教育センター3階 大研修室・オンライン

出席委員：片桐朝美、岡田敏弘、新津健朗、高橋みゆき、平松百花、菅原健、中野弘子、土屋秀雄
吉田純子、大野通子、中野昭精、瀧澤勤、加藤亮一、豊田未知、海老原恵理子、
鶴田明子、工藤勇太、渡邊幸治、高橋久実子、春日里江

事務局：小嶋健康福祉部長、立仙障がい者支援課長、荻野障がい者相談支援担当課長
他6名

傍聴者：2名

（順不同、敬称略）

<配布資料>

- ・席次表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料1）
- ・委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料2）
- ・意見シートの内容について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（資料3-1）
- ・広報みたか号外（第5次三鷹市基本計画1次案特集号）・・・・・・・・（資料3-2）
- ・障がい者週間関連イベントの実績について・・・・・・・・・・・・（資料3-3）
- ・第三期三鷹市障がい者（児）計画（素案）に係る市民意見への対応について・・・（資料4-1）
- ・第三期三鷹市障がい者（児）計画（素案）・・・・・・・・・・・・（資料4-2）
- ・三鷹市障がい者地域自立支援協議会について・・・・・・・・・・・・（資料5）
- ・障がい者のためのしおり
- ・第6回タイムスケジュール（予定）
- ・意見シート

<持参資料>

- ・第二期三鷹市障がい者（児）計画
- ・令和4年度三鷹市障がい者等の生活と福祉実態調査報告書（概要版）
- ・令和4年度三鷹市障がい者等の生活と福祉実態調査報告書

1 報告事項について

（1）意見シートの内容について

○ 事務局

（資料3-1）を用いて意見シートの内容について説明。

（2）第5次三鷹市基本計画（1次案）について

○ 事務局

（資料3-2）を用いて第5次三鷹市基本計画（1次案）について説明。

(3) 障がい者週間関連イベントの実績について

○ 事務局

(資料3-3)を用いて障がい者週間関連イベントの実績について説明。

○ 会長

ご質問等はあるか。無いようなので次第2の第三期三鷹市障がい者(児)計画策定について、事務局より説明をお願いします。

2 第三期三鷹市障がい者(児)計画策定について

○ 事務局

(資料4-1)から(資料4-2)を用いて第三期三鷹市障がい者(児)計画策定について説明。

○ 会長

事務局より、パブリックコメントに対する市の対応の方向性について説明があったが、この内容について意見交換を行う。

本日の会議をもって、自立支援協議会としての計画案を確定したいと考えている。時間に限りがあるが、具体的な修正案のご提示をお願いしたい。また、この場で議論し切れなかった内容や、文言修正等については、正副及び事務局に一任していただければと思う。

○ A委員

時間に限りがあるのに、資料を用いて一言一句この場で説明する意味は何なのか。その時間を意見交換に回すことはできなかったのか。計画に盛り込めない意見のみ説明すれば良かったのではないか。

パブリックコメントについてだが、多かった、少なかつただけではなく総論としてどのように評価しているか聞きたい。

○ 事務局

パブリックコメントについて、前は保護者の方、事業所の方からご意見をいただいた。今回も、ご家族や介助されている方など携わっている方から幅広くご意見をいただけたと認識している。

内容についても、計画の骨格として示した部分に幅広く様々なご意見をいただけたと評価している。

○ B委員

パブリックコメントが開始され、すぐに配布場所に取りに行ったが「ありません」と言われた。後ほど、市の窓口に向ったところ、「元々置いてある部数が少なく、足らなかったのかもしれない。」とのことだった。

今回、パブリックコメントを出してくれた方の人数は10人だが、見たいと思った人にも届かなくなってしまう現状がある。広報に掲載している限りは、配布場所に常に置いてあるようなシステムにしていただかないと10人という人数が適当かどうか評価しづらい。

○ 事務局

お手元にすぐに届かず、申し訳なかった。事務局としても、配布場所や部数、パブリックコ

メントの期間についても、皆様に十分確認いただけるような環境整備に努めていきたい。

○ C 委員

パブリックコメントに関しては私達にも責任があるなど思っている。

パブリックコメントを実施する前に分かっていないと、その期間の間に見たり考えたり、意見を言ったりすることは中々難しいと思う。

例えば、事業者として職員や利用者の方に伝えてはいるが、せっかく実施しているのだから、意見のあるなしに関わらず多くの方が見て、これだけの人が見ているといったことが分からないとあまり意味がないと思う。

第三期三鷹市障がい者（児）計画についてだが、事業所の立場で見たときに、少し数字のずれがあった。もし修正があるのならばその修正についても見える形で示していただけるとうれしい。

ご意見の10番で自立支援協議会について記載があるが、私達も含め計画策定に関わらせていただいている中で、どのように皆さんのニーズを捉え、何かを作り、役に立ててるのかといった部分が見えにくいと思う。それについては頑張ろうと思った。

○ B 委員

C 委員も仰っていたが、サービスの数値に関しては私も見たときに驚いた。この数値で本当にパブリックコメントに出したんだというのが正直な感想。

今回の資料では、市民の方から頂いたパブリックコメントに対して修正した内容が書いているが、市の方で、パブリックコメントで意見はもらっていないが、確認した結果修正をした部分はあるのか。

○ 事務局

事務局としても数値については、暫定版というように認識していたので、今回配布したものが修正したものになる。今後、中身についても事務局の方で確認し修正があればしていく。

○ D 委員

具体的などころではないが、パブリックコメントを出して、意見が来て、計画の整合をとって修正をしていく流れの中で、私たちみんなで一生懸命作った素案に対してのリアクションとして手応えがあったという認識で良いのか。

幅広く意見は出ているが、その内容は私たちが頑張って作ったものに対して、求めていたリアクションであったのかということを経理局含め、委員の皆さんのご意見も可能であれば伺いたい。

○ B 委員

正直な部分で言うと、現時点ではプランが出来上がっただけ。実際どうなっていくか、ちゃんと検証できるのかといったところが気になる。

ただ、皆さんと議論した内容が形になったことはすごく良かったし、パブリックコメントでおそらく委員でない人からもコメントがあったのかなというところからすると、外部の人たちにも計画について知ってもらえる機会を作れたので良かったと思っている。

○ A 委員

当事者から障がい者計画を見たときに、計画自体にはあまり興味がない。

計画をもって何を実行していつているのか、自分達が何を実行すればよいのかに興味があ

る。

以前から申し上げているが、PDCAのPに重点が置かれ、D、C、Aの部分が当事者側からすると伝わってこなかったというのが、前期の反省だと思う。

今回の計画にもPDCAの説明が掲載されているが、B委員がおっしゃったとおり、実行・実施され初めて納得できる。結果論として評価するものだと思う。

パブリックコメントで意見をいただいたので、このように加えましたと説明されても、そうですかとしか言いようがない。例えば、この意見に対して、こういう思いがあって市は評価し、文面を加えましたということであれば理解はできる。また、計画を基にこんなことを実施しますというのを、年間スケジュールのような目に見えるような形で示していただき、計画を実行するまでのプロセスが分かった方が非常にありがたい。

○ 事務局

事務局としても、計画を作って終わりではなく、むしろスタートに立ったという思いで策定している。計画の文言を入れたりする中で、具体的な事業が思い浮かべるような計画にしていきたい思いは皆様と同じである。

本冊の59ページの部分について、色々な分野で協議をする中で、共通の部分として、互いに理解し認め合う地域づくりというのが大事だと思い、基本目標2に掲げた。

具体的な事業として、①心のバリアフリーの推進、②障がい者差別解消の研修、③障がい者の虐待防止の取組の3つを主な事業とし、広報や、映画上映会といったイベント等を行っていきましょうという形で、63ページに記載した。

第三期三鷹市障がい者（児）計画の振り返りのときには、実施した事業やイベントを通じて、互いを理解し認め合う地域づくりがどれだけ出来たのか、自然な関係ができるような社会になっているだろうか、といった部分で振り返りををしていただく形になる。

計画策定の中で、委員の皆様からいただいた課題については、パブリックコメントでいただいた関心がある部分とほぼ同様な形になっているので、皆様方に検討していただいたところの骨格は合っているんだということを再認識した。

パブリックコメントでも、人財の確保や、心のバリアフリーの推進が必要といった内容のご意見をいただいた。協議会に出ていない方も、そういったところに関心があり、必要と感じているというような内容のパブリックコメントだったと認識している。

○ E委員

バリアフリーのまちづくり基本構想について、東京都のまちづくり条例のときもそうだったが、意見を言える当事者の方は策定に関わっていたが、意見を言えない最重度の方達は参加していなかった。

自分の意見を言えない最重度の人間こそが本当に使える施設であってほしいと思っている。例えば、お手洗いにしてもベッドが必要だったり、車椅子の取り回しができるスペースとなると、今の状況よりも広いスペースが必要になってくる。車椅子の中には、ストレッチャータイプの方もいる。

重度の知的の方で、トイレの水を流すマークが混乱すると言っている方もいるが、そのような意見が中々吸い上げられていない。ユニバーサルトイレについても、車椅子のマークが付いていれば車椅子の方が使えると思うと大間違いで、ベビーベット等が付いていれば車椅子

子マークが付けれたりする。

まちづくり基本構想の改定の際は、重度の方の親が参加できるようにしてほしいと思うし、最重度の方の意見も入れられるように配慮しますといった文言が入っていると、うれしい。

○ 事務局

バリアフリーまちづくり推進協議会には、健康福祉部の職員も参加している。E 委員がおっしゃっていたご意見等が届くようにしていきたい。

○ F 委員

A 委員がおっしゃった PDCA について、心のバリアフリーの推進というところで事業として実施していくと伺ったが、目的が達成できたかは評価指標がないと、難しいと思う。回数や、実績だけでは本当に心のバリアフリーの推進が図れたのかどうか分からない。数字にはできない部分なので、とても難しいと思うが、評価指標をきちんと据えておかないと、評価のときに一体どうやって評価したら良いかわからなくなると思う。

○ 事務局

福祉や子供の分野についての評価指標の作り方はすごく難しい。委員の皆様からも、こんな数値が上がってきたらバリアフリーが進んでいるんじゃないかといったご意見をいただきながら検討していきたい。

○ A 委員

心のバリアフリーは数値化されるものなのか。人と人の気持ちの問題であり、それは指標にできないといった話なのになぜ数値化といったことになるのか。

意見を言える当事者もいれば、言いたくても言えない、言葉にできない方や、自分の意思を表現しづらい人もたくさんいる。

また、当事者と障がい福祉に携わる担当の方との心のバリアフリーが一番難しいと感じる。行政の方は部署異動等で福祉課に勤務されている方が多いと思うので、障がい者の気持ちが分からないのは当然だし、私たちも公務員になったことがないので公務員の気持ちはわからない。そうすると、相互理解というのが一番難しいのではないかと思う。

当事者がこうしてほしいと思っていることと、行政が当事者にこうしてあげたら良いのではないかと考えていることにずれがあるのではないかと思う。

私自身もできるだけ意見を言うようにはしているが、声なき声を聞いていただけるような機会を設けていただきたい。

パブリックコメントや、実態調査にしても、会議室で議論するだけではなく当事者がいる現場に行ってもらって、ヒアリング等の取り組みを行っていただくと当事者の生の声が増えるのではないかと思う。

○ 事務局

心のバリアフリーの指標化が難しいというのは、皆様の共通認識だと思っている。今回の計画策定の中では、相互の理解、心のバリアフリーに非常に力を入れている。現在、基本計画について改定、策定を進めているがその中にはいくつかの数値が載っている。障がい者福祉に関していえば、障がいのある人が暮らしやすい街と感じている市民の割合は、27.1%となっており、実感として低い数値だと感じる。

こうした部分は、障がいのある方、ない方にかかわらず、三鷹市が障がい者施策をどのようにやっているかを理解していただくことが、指標の1つになっていくのではないかと思います。

また、職員としても現場の声をもっと聞きたいと思っているが、業務が繁忙な部分で職員も思うように時間が取れなくなっている実態もあるのかなと感じている。

今回計画を作らせていただき、実行していくことが大事だと思うので、計画を確定させた後しっかりと取り組んでいく必要がある。

○ 事務局

A 委員から、意見交換してもずれがあるとご意見をいただいたが、事務局としても諦めずに、何度も分かるまで聞かせていただくので、皆様も何度も何度も言っていただきたい。

事務局と委員の皆様との距離を縮めていきたいと思っている。

○ 会長

文言修正等については、正副及び事務局の方に一任させていただく。

○ 事務局

今年度1年間かけて、計画について議論していただいた。今年度からの委員さんもいると思うが、1年目で計画策定ということで、非常に大変な思いをされたかと思う。ありがとうございました。

また、今回も非常に資料が多い中で、資料の提供も直前、当日だったり事務局の方も不手際があったことをお詫びさせていただきたい。申し訳ございませんでした。

今回の協議の中で、特に根本となるビジョンに関して、色々ご意見をいただいたと報告を受けている。私どもも、共生社会の実現に向けてしっかりこれから取り組みを進めていく必要があると感じている。

3年間の計画期間の中でしっかり実行することが大事ですし、できなかったことはしっかり反省し次につながるような計画にしていきたい。本当に1年間ありがとうございました。

3 三鷹市障がい者地域自立支援協議会について

○ 会長

前回に引き続き、委員の皆様のご意見をいただきながら、今後の協議会のあり方について検討していただきたい。

11月にいただいた意見については、要約したものを資料5の裏面に記載している。(2)と(3)については、協議会の中ですぐに決めるというのは非常に難しいため、今日の議題としては、(1)の協議会の親会と部会のあり方について、この場で話し合えればと考えている。

事務局から資料の説明はあるか。

○ 事務局

(資料5) 三鷹市障がい者地域自立支援協議会についてを用いて説明。

○ 会長

今年度は、計画の年でしたので全体会が6回ありましたが、次年度は3回を予定している。協議会の親会と部会のあり方についてご意見をいただくとともに、内容等についてもご意見いただきたい。

ただ、(2)・(3)について全く話し合わないわけではない。

○ B 委員

市役所の方と、当事者の方とで壁が少しあるといったご意見を他の当事者の方から伺っている。ざっくばらんに話ができる機会を設けて欲しい。

協議会として良いのかわからないが、机に向かって話すのではなく、懇親会みたいな会を設けていただき、当事者の人達や委員同士の人達、市の人たちとも距離を縮められると良い。

○ A 委員

協議内容から外れてしまうかもしれないが、親会に当事者が出席する意義について、委員の方はどう思っているか聞きたい。

事務局の方にメールでお問合せしたところ、「当事者委員の方が担っていただく役割については、会議でのご発言等に基づいて、障がい特性による生活や支援の課題を発信していただくことと考えています。協議会では、それぞれの当事者委員の方々から寄せられる課題を共有し、問題解決に向けた協議を行うことができればと思います。理解を深めるためにも、それぞれの委員の方々から直接ご意見をお伺いできればと思います。」との回答をいただいた。

当事者が自立支援協議会に出る意味は、形式的には分かっている。他の自治体では、当事者が自立支援協議会に参加しているところは少なく、ぱっと見、三鷹市の自立支援協議会は先進的に取り組んでいるように見えるが、飾りっぽく扱われているような気がする。

私の場合は、発言がどうしても衝動的になったり、卑屈になってしまう。これは、薬の副作用としての現象もある。事務局を批判するといった意図は全くないが、自分の発言を振り返ると、批判と思われるも仕方ないなと感じてしまう。

○ G 委員

親の会で当事者を入れたほうが良いという意見があった。私達は家族会だが、既に会員の中に 3 人当事者がいる。比較的快方に向いている方で、我々家族にとっても、当事者がいるのは励みになる。それと同様に、協議会に当事者が加わることは、本人たちからしたら大変だと思うが、貴重な存在だと思う。この会は、当事者のためにあるような会といっても過言ではない。

○ H 委員

A 委員には、直接話したり、メッセージでお伝えできればよかったが、中々会えず直接お声をかけられなくて申し訳なかった。今の問いに対し、私は A 委員のお話がいろいろな発想に繋がったりしていると思うので、迷惑だとか、何も意味がないとかそんなことは感じていなかった。

障がい特性について話していただいた部分も含め、協議会の中でどういうことを話していけばよいかといった共通の材料になっていると思う。

私は、A 委員の話をいつも面白いなと思って聞いていたので、A 委員自身がそんなに深刻にならなくてもいいのではないかな。また、この場は議論する場ですので、批判したいことがあれば、それを表明する権利は、障がい当事者だろうと障がいを持ってない方であろうと、全員平等にある。批判から生まれる何かもあると思う。その批判が、ある人に攻撃的で圧迫的で、個人的な攻撃みたいになると良くないと思うが、それも一つの意見なのではないかなと思う。

○ I 委員

この協議会にはそれぞれの専門の分野の 1 人として参加していると思うが、自分の専門分

野以外のことはあまり知らない。色々な方が一つに集まり、話をする中で自分が知らないことをたくさん知れるのは非常に勉強になる。また、自分の意見を言うことで、皆さんのためにもなりたい。

例えば、E 委員が発言された多目的トイレの話で、ストレッチャータイプの車椅子のことを実際に見たことがない人もいると思う。

こういった会で実際に当事者の親御さんからの意見を聞いて初めて、知る方もいると思うので、そのような機会を与えてくださるのはとても意味があることだと思う。

A 委員は発言の際に、いつも一生懸命言葉を選びながら発言されていて、一つに発言をするにも大変な思いをしているのかなと感じる。一つの言葉を発するだけでも大変な思いをする方がいるということを知る機会にもなるので、当事者の方がいるのは良いことだと思う。

○ J 委員

A 委員のご発言は本当に意味があることだということ、協議会に参加するときの苦しさを聞かせていただいたことに、感謝をお伝えしたい。ありがとうございます。

当事者の方が参加することは、私も皆さんの意見と同じだが、付け加えて言うと、事業所で支援している知的障がいをお持ちの方が、協議会に来て、資料を貰ってその場で自分の考えや思いを的確に発言できるかということ、それは難しいと思う。

私たちの事業所では月 1 で、夜の時間帯に働いている障がいをお持ちの方が集まる座談会を実施している。そこに来ていただいたほうが、彼らの生活問題や、今後の困り事を話してくれるだろうと思う。事務局の方には、当事者の方が集う場所に来ていただいて、平場で意見を聞いていただきたい。昨年、知的障がい者の方を対象にしたグループホームの学習会を実施した。直接市の方に会うことで、本人たちの意識も変わり、彼らの本音もそのまま伝えられた。グループホームに 10 万もかかるなんてそんな生活やっていけませんといった本音と言えるのは当事者の方の力だと思う。本人たちの 10 万円がいかにか大変か発言し、それを直接市の方に聞いてもらう方が、話が伝わると思った。

親会と部会のあり方について自分自身整理がついていない。

自立支援協議会の一番の目的は、課題解決や地域の課題を共有し、解決に向け協議していくのが本来の姿だと思うが、その課題をどのように設定するかが見えてこない。部会の内容を持ち込むのか、それとも全然別のテーマを地域課題として挙げるのか分からず、何を協議するかがはっきりしないのが、一番もやもやする。

計画に沿って何か活動をしていくのであれば、その部分は部会で担うことなのかなとも思う。計画を追っていくのが自立支援協議会なのか、計画は計画でそれぞれのやるべきところをお願いし、別の課題を協議していくのかの軸がよく分からない。

○ A 委員

自分が思っていることを皆さんが意識し、言い換えていただけることが一番安心できる。

最初は、学びの場だと思い協議会に参加した。難病だけではなく、他の障がいについても知らなかった問題が顕在化していることを直接学び、勉強できる場であるという前向きな考え方で参加した経緯もあった。

事務局を批判するつもりは全くなかったが、批判しても良いと言われると、批判していると捉えられていたと思うので、今後は気をつけたいと思う。

両親が高齢化し、親亡き後問題に自分が該当する年齢になった。地域の方や、色々な方とのつながりをこれから大事にしていきたいと思う。自分の仕事は、在宅勤務で、一人暮らしをしている。在宅勤務となると、人との関わりがなく、下手すると1日1人で部屋にいることになるが、それは良くないので、最近色々関わりを持つように心がけている。

○ 会長

正副から、次年度の親会と部会のあり方について提案がある。

来年度は3回しかなく、1回目が6月を予定している。案としては、各回で2～3の部会から何か報告していただき、意見交換をするのはどうか。初回は事務局から伝達事項、報告事項があると思いますので、1～2部会になってしまう。ただ、年に3回なので、初回から動きだしたいと考えている。

○ K委員

今年度、初めて委員をやらせていただき、分からないことが多かった中での計画策定だったが、この計画がどうなっていくのかしっかり見ていきたい気持ちと、地域の細やかな課題を3年間の間で何か形にしたいという気持ちがせめぎ合っている。

3年経ったときに残念な思いをしそうなので、今ここで、どういう方向性にするか、委員の皆さんのご意見をお聞きしたい。

○ L委員

今年度で計画が確定し、来年度それをどのように実行していくかといったところで、地域課題等をどのように落とし込んでいくかという部分が肝になってくると思うが、その話し合いをどこですればよいのか。

部会を充実させるといったところで、ワーキンググループを作るかどうかといった部分の整理を今年度中ぐらいにし、来年度はスタートが切れれば良いのではないかと。

○ M委員

1年目、2年目、3年目とある中で、開催回数は一番少ないが、2年目が一番大事な年だと思っている。委員になったことがない人は、2年目の内容をずっと協議しているのが自立支援協議会だと思っているのではないかと。

計画が6回あるのなら、2年目は10回ぐらいあっても良いのではないかと。3回の協議会でそれぞれの部会で積み上げたことに対し、意見交換し具体的にできるかというとなかなか難しい。計画と調査で2年間取られてしまうといったこのスケジュールがそもそも厳しいのではないかと。計画を3年間でどう実行していくかという部分に比重をかけないと、いつも繰り返になってしまう。

○ L委員

M委員のおっしゃる通りで、この会議は地域課題をずっと話し合っていくのかと思っていた。相談支援部会や相談支援事業所連絡会で、地域課題を出している。どの部会でも課題は出てきていると思うので、いかに計画に落とし込んでいくのかといった部分が2年目で一番大事となるので、丁寧にやっていきたい。

○ A委員

意見シートについて、配布していただくことは大変ありがたいが、本来は会議で言えなかった意見を紙で提出してもらい、意見を集約しそれに基づき課題を抽出し、ポイントを絞っ

て解決策を議論するのが一般的な会議だと思う。

○ 会長

意見シートをうまく活用しながら、地域課題や課題解決に向け次年度の第1回を開催するというので良いか。

○ J委員

部会は部会で進め、部会で上がっている地域課題とは別の課題を親会で取り上げるといった理解で合っているか。

その場合、この後の意見シートの内容を第1回目の協議会までに、事務局若しくはメール等でやり取りし、テーマを絞るということなのか、第1回目に出た意見を見て今年度の課題を決めるのかどのような進め方になるのか。

○ H委員

私は委員になって2年目で、それが計画策定の年に当たっており部会と親会の関係性がよく分かっていないので、どうか聞かれても分かりませんとしか答えられないのが正直なところ。

ただ、障がい者地域自立支援協議会の目的を読む限り、部会と親会でなにをやるのか白黒つけなくても良いのではないかと。今、相談支援部会に所属をしているが、相談支援部会の中で、色々な部会の皆さんと議論し、相談支援に関する議論をしてるように、他の部会でもそういった活動はされていると理解している。それぞれの部会で取り組んだことが共有できる場所が親会だと思っている。

親会の中で、相談支援部会ではこういう課題が出たが、その課題は少し生活支援部会でも関わることはないか。こんな部分を生活支援部会で検討できないかといった意見交換や、他の部会でも議論してほしいといった話し合いをする場が親会だと思っていた。

回数だけの問題で言うと、M委員がおっしゃっていた協議会を10回開催するのは、ほぼ毎月になり、出れない日も多いのではないかと。思う。

部会活動のフィードバックだけでも十分地域の共通課題を共有することができるのではないかと。もっと共有したいのならば、成果発表会のような時間があった方が良い。

○ A委員

先ほどの意見シートというのは、あくまで例であり、順番が違うのではないかと。といった感想だ。

親会、部会の関係という観点から、当事者部会で言うと、当事者部会ではこういう意見が出ているが、他の部会や、委員の方はどのように考えているのかといった意見交換のような形でも良いと思う。

私自身、協議会の参加は体調の面もあり無理して参加している。資料読んで分かる報告事項は省略していいのではないかと。追加で説明することがあれば別だが、読めば分かることは省き、各部会で拳がった親会で議論したい課題にポイントを絞り、それを地域課題として親会で議論するのはどうか。

○ 会長

部会で話し合ったことを親会で発表し、共有してもらおうといった認識で合っているか。

○ A委員

共有はするが、部会でこんな内容を議論したが、皆さんはどう思いますかといった話し合いを親会でする方が発展性があるのではないか。

○ 会長

部会の報告を挙げていくといった形で6月の初回を開催したいと思う。6月の親会で発表してくれる部会はあるか。

○ A副会長

各部会の進み具合もあるので、事務局と相談し決めていこうと思うが良いか。

○ J委員

部会の中で話し合ったことを、親会に挙げ議論する場として自立支援協議会があるという、そういう理解で大丈夫か。報告ベースではなくて、あくまで各部会から親会に挙げたいものを出し、議論することがメインという理解で大丈夫か。

○ M委員

6月まで部会任せにするのも、時間をもったいないと思う。部会の報告は、データ等で共有できる。次回は、各部会で抱えた課題をどう親会で共有し合い、一緒に考えてもらうかということと、逆に、他の部会の方にこういう問題に取り組んでほしいというようなテーマ決めとかの方が良い。発表会形式は要らないかとも思っている。

○ K委員

11月の協議会でいただいた意見で、親会で参加している全員が意見を発信できるような場を設けて欲しい、Slack等を使用し、みんなで課題を話し合えるような対策を打ってほしいと意見があるが、こういうものがあれば、事前に課題を集約し、親会でしっかりと議論できると思う。

○ 事務局

課題の抽出や、フィードバック、事務局として解決ができるかどうか、委員の皆さんに話し合っていたいただいたものを事前に整理することは可能だと思う。

M委員がおっしゃられた通り、次回の協議会が6月から7月上旬になるので、半年近く空いてしまうのはもったいない。事前に部会の中での議論の共有ができればよいと思うし、その中で親会で話し合えるテーマの取りまとめができれば良い。

所属されているところでの話題等も親会で議論出来たら良いと思うし、事務局もサポートしていきたい。

○ B委員

Slackに関しては、できるかどうか回答していただきたい。

そして、私としては地域課題をここで解決するのは不可能だと思う。ここでやることとしては、課題が挙がり、地域の人たちに聞いてみようということを考える場所であってほしい。

○ 事務局

Slackについて、マチコエで今年度、計画に向けてSlackを活用していたと聞いているが、全庁的にやっているものではなかった。今後、全庁的に広げていくといった情報が出たら、共有していく。

○ A委員

次の会議まで半年あるなら、当事者の声や現場の声をいろいろな場面で聞いていただきたい。それを重ねていくことで協議会で優先的に議論すべき課題が決まっていくのではないかと。

○ B副会長

第1回目については、部会の報告やそこで出た課題について親会で話し合うことをメインに進めていきたいと考えている。

A委員の提案については、事務局と連携しながら検討していきたい。

次第4 その他

○ 事務局

2月4日（日）に「さかなのこ」の映画上映会を実施する。

○ J委員

3月4日（月）にかけはしの事業報告、意見交換会を開催する。この会は、私達が行っていることを皆様にチェックしていただく会だと思って毎年実施している。支援している職員が、関わる当事者の方からの声をできるだけ届けられるようにしたいと思っているので、ぜひご参加ください。

○ 事務局

今日お示したパブリックコメントについては、詳細に掲載をしているが、計画等で公表する際は、趣旨について要約をしたものを掲載するのでご了承いただきたい。

○ 会長

令和6年度の協議会につきましては、事務局より別途ご連絡させていただく。